

バンクーバー冬季五輪から8カ月が過ぎ、冬季競技の新たなシーズンが開幕。

4年後をにらんだスキーとスノーボードの戦いを展望する。

スキー、スノーボード 今シーズン展望

伊東が日本勢けん引 ジャンプ／渡部、上位争い期待 複合

ジャンプ

複合

フスタン)では金メダルを狙う。

アルペン

サマージャンプのグランプリ(GP)で初めて総合優勝した伊東大貴(雪印)が日本勢をリードする。助走から滑らかに空中姿勢に移行するスムーズな飛躍で、早い時期にワールドカップ(W杯)で初勝利を挙げられれば、総合でも上位争いが期待できる。

男子は昨季に初のワールドカップ(W杯)総合優勝を果たした24歳のカルロ・ヤンカ(スイス)

冬季五輪2冠のマリア・リーシュ(ドイツ)は、地元開催となる来年2月の世界選手権でも複数の金メダル獲得が期待される。

フリースタイル

バナー五輪個人ノーマルヒル7位で走力がある小林範仁(東京美装)や、苦手だった飛躍を改善しつつある湊祐介(東京美装)も表彰台を目指す。

と、徐々に故障なしでシーズン開幕を迎えたアクセルレント・スピントル(ノルウェー)が激しいW杯総合優勝争いを繰り広げそう。

モーグルは女子エースの上村愛子(北野建設)が休養。若手が飛躍を期す。バンクーバー五輪男子で7位に入賞した遠藤レビ)は復調できるか。

距離

今季は飛び過ぎを防ぐため、スキーの長さが短くなり、体重規定も変わった。五輪2冠のシモン・アマン(スイス)やアダム・マリシュ(ポーランド)らに対抗するためには、夏に好調だった竹内択(北野建設)や負傷明けの葛西紀明(土屋ホーム)らがルール変更に対する早く対応することが求められる。

バンクーバー五輪で日本勢過去最高の5位入賞を果たした女子長距離の石田正子(JR北海道)や短距離を得意とする男子の恩田祐一(新赤倉)に注目したい。両選手とも年末年始の10日間で8レースするツール・ド・スキーに日本勢で初挑戦する予定で、1月末開幕の冬季アジア大会(カザ

杯種目別21位の佐々木明(エムシ)と同23位の湯浅直樹(スポーツツアルペ)が上位定着を狙う。夏場の練習では一新したコーチ陣の下で技術を磨き直し、手応えを得たという。

日本勢は回転で昨季W杯種目別21位の佐々木明(エムシ)と同23位の湯浅直樹(スポーツツアルペ)が上位定着を狙う。夏場の練習では一新したコーチ陣の下で技術を磨き直し、手応えを得たという。

アルペンのス波正樹(ジャパンファクトリー)は基礎体力の向上を図って迎えた今季、W杯初戦のパラレル回転で過去最高の11位に入った。ソチ五輪を視野に、今季は安定して決勝に進出することを目標に据えている。



ス波正樹

若手飛躍期す モーグル／ス波、「安定感」目標 スノーボード

ハーフパイプはバンクーバー五輪男子代表の青野令(松山大)がレベルアップを目指す。ジャンプの高さは世界で通用する。4年後のソチ五輪を見据えて、縦回転などエアの幅を広げていきたい。